

学習のてびき



那覇市立寄宮中学校

年 組 番 氏名:

1. はじめに

中学生時代は、人間の一生の中で、心も体も大きく成長するときです。いろいろなことを学び、身につける能力もぐんぐん伸びていきます。ですから、この時期に心や体を鍛え、学力をしっかりと身につけ、長い人生をより良く生きていくための基礎づくりを、大いにやってほしいと思います。

ところで、皆さんもおわかりのように、学校には授業や学校行事、生徒会活動、部活動など、いろいろな勉強があります。その中で中心が「授業」です。ですから授業がわからないと、学校に来てあまりおもしろくありません。授業を受けることが退屈で、毎日がつまらなく感じられたりします。学校生活を楽しく充実したものにするために、少しでも授業をわかることになることがとても大事なのです。そのためには、毎日、家で復習（家庭学習）をすることです。

この「学習の手引き」には、皆さんがいろいろな知識を吸収し、勉強がわかるようになり、楽しく充実した学校生活を送られるように、との願いから作られたものです。ですから、「てびき」には、授業の受け方に始まって、家庭学習やテスト勉強の仕方などがわかりやすく書かれています。さあ、あなたも、この「学習のてびき」を大いに活用し、家庭学習が習慣化するよう、頑張ってください。

2. 家庭学習の大切さ

(1) 人間は、誰でも「忘れる」

皆さんの中には、授業中わかったつもりでも2、3日たつと忘れてたり、思い出せなかったり、という経験はないでしょうか。授業だけでなく、日頃の生活の中でも、忘れてしまうことはよくあることです。

この「忘れる」というのはどうして起こるのでしょうか。それは、人間の脳のしくみがそのように作られているからです。どんな人でも、1日たつと約70%は忘れてしまうと言われています。ですから、「忘れる」というのは、人間にとってあたりまえのことなのです。

(2) そこで「復習する」ことが大切

でも、忘れては困ることもあります。学校の勉強などもその1つです。せっかく学校で習ったことをどんどん忘れてしまつては大変ですよ。では、何かよい方法はないのでしょうか。たった1つだけ方法があります。それは学校で学習したことを家で復習することです。学校で習ったことをその日のうちに家で復習すると学校で習ったことがよくわかるようになるだけでなく、頭の中にしっかりと記憶され、忘れなくなります。ですから勉強というものは、頭の良し悪しに関係するものではなく、毎日習ったことを家で復習し、次にそなえて予習することが何よりも大切なのです。

3. まず、1ページから始めよう！

家庭学習をやる教科は、まず、好きな教科から始めましょう。目標として、家庭学習をあまりしたことのない生徒は家庭学習帳の1ページから始めて下さい。家庭学習の習慣がついている生徒は2ページ、3ページと量を増やしていきましょう。無理をしないで、自分に合ったペース(量)で続けていくことを目標にして、家庭学習に取り組んでいきましょう。

「学習のてびき」は、中学校を卒業するまで使います。

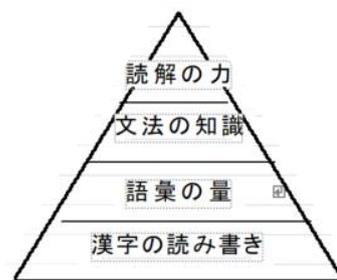
いざという時に活用できるように、
いつも手元に置いて、大切に使いましょう。

国語の勉強法

国語力は右の図のような力で成り立ちます。
国語力をピラミッドにたとえたとき、一番下の土台の部分は、漢字の読み書きです。

その次が、語彙の量で（知っている言葉の数）です。
その上が文法の知識で、最後が読解の力になります。

このピラミッドのどこに自分のつまずきがあるか、つかむことがまず大切です。



授業の受け方

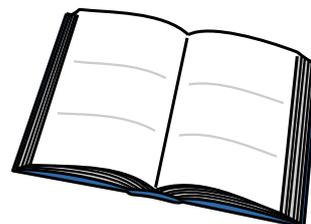
- (1) 国語は、授業で考えるときに力が育ちます。まず、授業に集中して、自分で考えたり、書いたりすることです。
- (2) 文章の種類によって、読み取りのポイントがあります。詳しいことは授業で説明しますので、しっかりつかんで下さい。
- (3) ノートは、縦書きで、「文字を」正しく速く整えて書くことが要求されます。板書をそのまま写すのではなく、ポイントを中心に自分なりの印や書き込みなどを工夫しましょう。

家庭学習の仕方

- (1) 予習 ①新出漢字の確認、読みの練習
②教科書の欄外の語句の意味調べ、類義語、対義語、短文づくり
③音読（学習しているところを5回は音読しましょう。）
- (2) 復習 ①ワークをやったり、ノートを再度見直ししたりして、学習の内容の確認をします。
②間違いは赤ペンで直し、なぜ間違えたかをもう一度考えることが大切です。また、解答書の解説を読み、理解を深めましょう。
③ワークの資料をまとめたり、発展的な問題にチャレンジしたりしましょう。
④関連する作家やジャンルの本を読み、作品のテーマについて考えましょう。

テスト勉強の仕方

- (1) 期末テストは、授業で習ったことが中心です。授業をしっかりと聞き、考え、まとめておきます。
- (2) 新出漢字や語句の意味は必ず覚えておきましょう。自分でテストを作り、確かめをすることが重要です。
- (3) ワークや授業で使ったプリントを何度もやること、ノートの見直しやまとめもやりましょう。



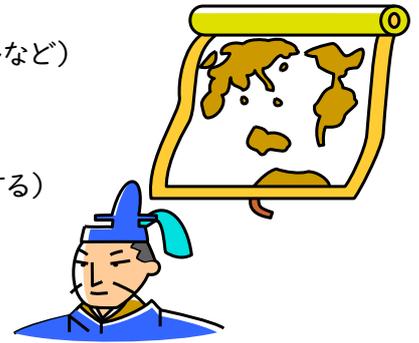
受検勉強の仕方

- (1) 読むことに慣れること、わからない漢字や語句の意味は、面倒がらずに辞書で調べる習慣をつけておくことです。
- (2) 実践力をつけるためには、問題集や漢字ドリルなどを一冊仕上げることです。特に、記述問題は、答えを写すのではなく、まず自分の力でやってみる事です。
- (3) 国語資料集（便覧）の古典や漢文の基本事項を理解し、覚えましょう。
- (4) 国語資料集（便覧）の文法や語句について理解し、覚えましょう。

社会の勉強法

授業の受け方

- (1) 学習用具をそろえて授業にのぞむ。(教科書・ノート・資料集・ファイルなど)
- (2) 先生の説明は集中して聞く。(話し手に体を向ける。話は目で聞く)
- (3) 教科書や資料をよく読み、そして考え、何を意味しているかをつかむ。
重要な用語や要点は、授業中でできるだけ覚える努力をしよう。(メモする)
- (4) 発表するときは、みんなに聞こえるように話す。
- (5) 作業する(問題などに取り組む)ときは、私語はせずに集中して行う。



家庭学習の仕方

- (1) 予習 ①教科書の次の授業で学習するところを読み、「どんなことを学習するか」を知っておくと、授業がよくわかる。
②疑問点や質問したいことをノートに書いたり、新しい用語などもわかる範囲で調べたりしておくのもいい。
- (2) 復習 ①必ず教科書を読み、蛍光ペンなどでなぞろう。(読むだけでも効果がある)
②キーワード(重要な語句)などをノートに写し、意味を調べたり覚えたりする。

テスト勉強の仕方

- (1) 地理 ①教科書を読みながら「どこに、何が、どのくらいあるか、なぜそうなっているか」を考え、地図にも印をつけて確かめる。
②ノートに書かれた重要な地理用語を覚える。
③統計やグラフなどから、その地域の特色を理解する。
- (2) 歴史 ①教科書をよく読み、「いつ・どこで・誰が・何をして・どうなった」を理解する。
②歴史上の出来事については、「どんな原因で起こり、どんな結果になり、それがどんな影響を与えたか」という歴史の流れを考えながら学習する。
③ノートに書かれた重要な歴史用語や人名、年号を覚える。
- (3) 公民 ①教科書をよく読み、現代社会の政治や経済のしくみを構造的にとらえる。
②教科書の図表、グラフや統計、その他の資料も意味を理解する。
③政治・経済・社会に関する用語を覚える。

受検勉強の仕方

- (1) 地理は、統計資料を地図と結びつけて理解します。重要用語、国名や都市名、県名や県庁所在地などは覚え、統計資料も、なぜそうなっているかを考えながら学習しましょう。
- (2) 歴史は、教科書にそって歴史の流れを意識しながら勉強します。入試では、承久の乱の後、朝廷と幕府の力関係はどのように変化したか?などと、前後の流れを理解しているかを問われます。
- (3) 公民は、教科書で基本的な語句を覚えながら、条文や制度の趣旨や意味を理解していきます。衆議院の優越が認められているはなぜか、なぜ独占が悪いことなのか、なぜ景気が悪いときに公定歩合を下げるのか、単純暗記ではなく「なぜ?」を意識することが大切です。
- (4) 入試の傾向を知るために、受験問題集や過去の入試問題集はやっておきましょう。
- (5) 教科書で太字になっている語句は、重要語句です。漢字で書けるようにしましょう。
(入試にも毎年漢字を問う問題が出ます)

数学の勉強法

授業の受け方

- (1) 学習用具をそろえて授業にのぞむ。(教科書・ノート・ニュートンJr・ファイルなど)
- (2) 教師の説明や友達の発表は、考え方や解き方の説明なので、書くのを止め、聞く(理解する)ことに集中する。
- (3) 板書は大切なことなので、必ずノートに書く。丸写しではなく、工夫してノートをとろう。
- (4) 練習問題は、できるだけ自力で解くようにする。そのとき、計算過程を省かずに丁寧に書くことが「確かな理解」につながる。
- (5) わからないところをそのままにせず、積極的に先生に質問して理解できるよう心がける。
- (6) 自力で解けた場合でも、模範解答があれば比較し、より良い解法を身につけるようにする。
また、一つの考えで満足せず、他にも解法がないかを考える習慣をつける。



家庭学習の仕方

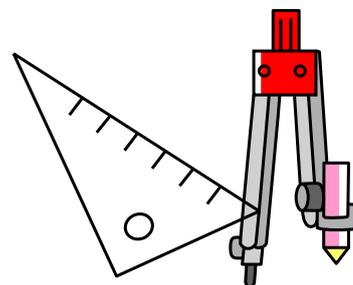
- (1) 教科書でその日に学習した範囲をひととおり読み返してみる。
- (2) その範囲の例題を、説明の部分をかくして自力でやってみる。
スラスラできた人 → 例題の下にある問題を解いてみる。
できなかった人 → 例題の説明をよく読み、わかったら、もう一度、説明部分をかくして自力でやってみる。
- (3) 毎時間の授業の内容をニュートン Jr で復習する。週末には週末課題を取り組む。
- (3) 問題を解いたら、必ず答え合わせをする。その場合、間違えた問題や難しかった問題に印をつけておけば、自分の弱点もわかり、テスト勉強のときなどに役立つ。
- (4) どうしても自力で解けない問題は、解答をよく読んでから、自分で解いているつもりで解答を写す。その後、すぐに類似問題にチャレンジしてできるかどうか確認する。
- (5) 次時に習うと思われる教科書のページに目を通し、内容を確認しておくこと、授業が理解しやすくなる。

テスト勉強の仕方

- (1) 数学のもっとも効果的なテスト対策は、教科書やプリント、ニュートン Jr などの試験範囲になっている問題を解いて、何も見なくても自力で解けるようにしておくこと。
- (2) 教科書やノート、プリントなどを、ただ目で追って「ああそうだった、こうして解いたんだ」という確認だけでは十分ではない。必ず、実際に問題を解くこと!
- (3) 間違えた問題、わからなかった問題は繰り返し解いておく。

受検勉強の仕方

- (1) 出題範囲は教科書に限られ、全学年の全分野から出題されるので、日頃の学習の積み重ねがとても大切である。
- (2) 基本的な問題が多いので、過去問や標準問題集を何度も反復練習することが効果的である。
- (3) 過去5年間の問題をこなせば、入試問題の傾向がわかり、一通りの対策はできる。「沖縄県最近5年間入試問題」は必携である。
- (4) 過去問をやるときは、入試本番を意識して時間を計り、解答順や一問題にかかる時間配分を考えながら解く訓練をする。



理科の勉強法



授業の受け方

- (1) 休み時間の中に学習用具を準備し、忘れ物はしない。
- (2) ベルが鳴る1分前には着席、黙想し、ベルと同時に始められるようにしよう。
- (3) 板書は内容を確認しながらわかりやすくまとめよう。復習の時に助かります。
- (4) メンバーと協力しながら、安全に留意して、観察・実験を意欲的に取り組もう。
- (5) 課題から最後の結論、まとめまでの流れ、つながりを意識しながら取り組もう。
- (6) 「なぜかな?」「どうしてかな?」と常に疑問を持ち、考えがまとめられるようにしよう。
- (7) 自分の考えをわかりやすく伝える工夫と、相手の考えを理解しようと聴く努力をしよう。
- (8) 気づいたことや大切なこと、疑問に思ったことやわからなかったことは、ノートにメモすしよう。

家庭学習の仕方

～「予習」よりも「復習」に力を入れよう～

- (1) 授業で習ったことは、その日のうちにノートと教科書に目を通し、理解できているかどうかチェックしよう。(わからないところは、メモをしておいて、必ず質問しよう)
- (2) 習ったところのワークブック(よくわかる理科)の問題を解き、理解できているか確認しよう。(授業の中でわかったことと、問題に答えられるほどの理解は少し違います。)
- (3) 「塵も積もれば山となる」1日たった15分でも、毎日続けることが大切。無理の無い長さで、毎日続けられるように工夫しよう。

テスト勉強の仕方

- (1) 理科以外にもたくさんの教科があります。Diary を利用して計画的に勉強しよう。(テスト勉強を必ずやろう)
- (2) まず、自分がどのくらい理解しているかを考えよう。
 - だいたい分かっていると思う人 → 問題を中心に解いていく。
 - あまり分かっていないと思う人 → まず、教科書やノートを読むことから始める。
- (3) 観察・実験を中心とした問題が出題されます。教科書にある重要な観察・実験については、内容や考えをまとめるだけでなく、目的・準備(器具名など)・実験方法なども整理しておこう。
- (4) 重要語句は、なるべく漢字で書けるようにしよう。

受験勉強の仕方

- (1) まず、「ものはためし」です過去問(過去の県立高校の入試問題)を解いてみよう。入試問題は、1～3年の範囲がバランス良く宿題されています。習った範囲のものはできる問題があるはず。探して、解いてみましょう。
- (2) 1、2年の学習内容が70%近く出題されます。1年の時から受験を意識して学習に取り組もう。
- (3) 問題集1冊を完璧に分かるようになるまで何度もやろう。さらに、基礎力をつけた上でさまざまな類題に挑戦してみよう。
- (4) 用語の暗記だけではなく、自然の事物・現象を図や言葉、文章で説明できるようになろう。

英語の勉強法



授業の受け方

- (1) 休み時間の間に教科書、ノート、ファイルなどの学習用具をきちんとそろえて授業に臨みましょう。
- (2) 先生の話はしっかりと聴き、集中しましょう。
- (3) 英語の授業では活動があります。しっかりと体と脳を動かし、体全体で英語を習得するように心がける。参加すること、いつでも自分のこととして考えること、表現してみることが大切です。
- (4) 英語の聞き取りは完璧でなくてもよい。知っている単語を聞き取り、わからない単語などは推測する
- (5) わからないところや質問があれば、遠慮なく先生に聞いたり、辞書を活用したりすると語彙力が伸びます。
- (6) 英語は英語でお互いの意志を伝え合う(コミュニケーションができる)ための学習なので、英作文や英会話の際には間違いを恐れることなく、積極的にどんどん英語を使いましょう。

家庭学習の仕方

※定期的に少ない時間でも、毎日継続して学習することが語学にとっては重要です。

- (1) 様々なデジタル教材を大いに活用しましょう。予習・復習の自主学習に役立ちます。デジタル教科書を活用して、単語の練習や音読、リスニング問題に挑戦しましょう。World Classroom を使って、何度も音声を聞いて音読をしましょう。繰り返すことで正しい発音で読めるようになります。eboard やタブドリ Live! でドリル学習を使って文法問題に取り組みましょう。
- (2) 授業で習った英単語や熟語をその日で覚えるようにする。ノートなどに書きながら覚える。その際、発音しながら覚えるようにすると、記憶の効果は上がるといわれています。読めない単語は先生や友達に聞いたり、辞書で調べたりしましょう。
- (3) テレビやラジオの英語番組を利用するのもよいです。NHK テレビ・ラジオの英語講座は、さまざまな番組があり、おすすめです。見逃しても再送で見る・聴くチャンスがあるという利点もあります。
※本屋に行くと、CD 付テキストも購入できます。
- (4) 英語の歌や英語が話されている映画を意識して見て学習してもよいです。CD、You Tube や DVD など、自宅にしながら英語のシャワーを浴びることができます。

テスト勉強の仕方

- (1) テスト範囲の教科書、ノート、ワーク、ファイルなどを徹底して何度も復習しましょう。
- (2) テスト範囲の単語、熟語を完璧に覚える。その際、例文を通して覚えると効果的です。
- (3) Key Sentence や教科書の本文を何度も音読し、頭に入れましょう。
- (4) 習った文法事項や表現を使って、身近なことを書いてみる。
- (5) 日頃の授業を真面目に受けることや家庭学習の積み重ねが威力を発揮します。

受検勉強の仕方

- (1) 過去問を何度も解いてみる。時間配分やリスニングの難易度や時間を体得する。
- (2) 受検用の単語・熟語集、文法集などを用意し、同じ参考書や問題集を最低3回は繰り返して勉強する。

There is no royal road to learning.

(学問に王道なし:勉強は一夜漬けでできる物ではない)

音楽の勉強法



音楽学習のポイントは…

- ①音楽活動〈歌唱・鑑賞〉を積極的に楽しみましょう。
- ②ジャンルを問わず、いろいろな音楽をたくさん聴いてみましょう。
- ③歌唱・器楽ともに失敗を恐れずに、どんどん表現してみましょう。
- ④演奏会に行ってみましょう。生で聴く音楽は、エネルギーを持っています。ぜひ体感を!

授業の受け方

(1)心のピントを合わせよう!

「演奏する」「鑑賞する」「話を聞く」「考える」…等

(2)やる気が大事 積極的に!

「授業ではやる気が大切 どのような活動も積極的に」

(3)失敗を恐れずに!

「失敗して当たり前 その後どうすればいいか考えることが大切」

(4)迷惑をかけない!

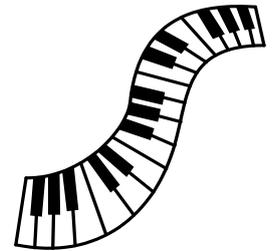
「私語・いたずら…等で他人に、また忘れ物・未提出…等で自分にも」

♪ 歌うときは、積極的に大きな声を出し、曲想に合わせ工夫をし、楽しみながら表現しよう。

♪ 合唱や合奏においては、パートやグループの仲間とリズムや音程を合わせたり、ハーモニーを創る楽しさを味わったりしながら、協力して活動に取り組もう。

♪ 楽譜に書かれている作曲者からの情報(音楽用語 *p f rit. Moderato* など)は見逃さず、歌や器楽の演奏での表現を通して覚えよう。

♪ 鑑賞するときは、耳と心を研ぎ澄まし、場面や状況を想像し、音楽を味わいながら鑑賞しよう。



家庭学習の仕方

- (1)普段過ごしているいろいろな状況で、時折心と耳のアンテナをはり、身近な音や音楽に気づいてみてください。また自らも生活の中に音楽を取り入れ、心豊かに!
- (2)合唱コンクール時には、自分のパートを録音した音源や You Tube 等を利用して、聴いたり、歌ったりして練習するといいです。
- (3)器楽(アルトリコーダー等)は、演奏の回数を重ねるごとに上達します。運指を覚えるまで、またいい音色になるよう工夫を重ね、練習してください。
- (4)授業で記録したポイントや大事なこと等、読み直し確認してください。

テスト勉強の仕方

実技テストは…

○毎時の授業でその都度、しっかり演奏(歌う・吹く…等)することが大事

歌唱→体が楽器!日頃から良い姿勢を意識し、自分のいい声を探して発声・表現をする。

器楽→何度も演奏し、運指を覚え、いい音色が出るよう表現の工夫をする。

題材テスト・ミニテストは…

○毎時の授業で大事なことや覚えるべきこと、ポイント…等を記録にメモをしておき、復習・確認をする。

○教科書、楽譜、ワークシートの見直しや授業の内容の復習をする。



美術の勉強法

授業の受け方

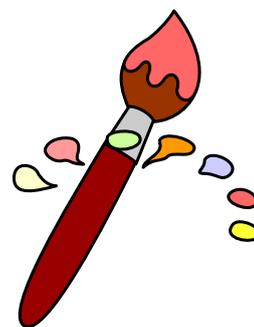
- (1) 用具を忘れない……………美術の学習は作品制作が中心となります。
必要な用具は忘れず持って来ましょう。
- (2) 学習のポイントをよく聞き……………毎時間、目標を持って学習しましょう。
制作の要点をつかむ
- (3) 完成するまで粘り強く作品……………作品を制作には、とても時間がかかります。途中で投げ
づくりに取り組む
出さずに完成させるまで頑張りましょう。
- (4) 用具の片付けをきちんと行う……………美術の学習では用具はとても大切です。使った用具は、
責任を持って元の場所に返しましょう。

家庭学習の仕方

-  (1) 普段の生活の中でも、美術で学習したことを生かすように心がけ、心豊かな生活をエンジョイして下さい。ものを作ったり、絵を描いたりすることに興味・関心を持つ。
- (2) 制作に取り組んでいる人の表情や動作を見て、その苦労や喜びについて知る。
 - (3) 身近にあるものや景色の美しさに気づいて、その形や色をじっくり味わう。
 - (4) 自分が考えたものを、作ったり描いたりして楽しむ。
 - (5) 授業で教わったこと(キーワード等)をふり返る。
 - (6) 生活の中にある美術を見つけ、それを味わう。

テスト勉強の仕方

- (1) 出題範囲の内容を確認する。
- (2) 教科書の文章を何度も読んでおく。
- (3) 普段の授業の中で、先生が説明した大切なポイントを確認する
- (4) 作図テストの場合は、作図の描き方を何度も練習をする。



コンクールへのチャレンジの仕方

 コンクールへの作品の出品には、二つの方法があります。

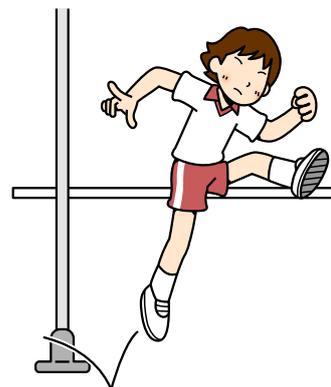
- (1) 夏休みの宿題(全生徒が必ず1点以上提出するもの)
夏休み期間に、指定されたコンクールの作品を仕上げて休み明けに提出します。(テーマはプリントにして配布します)
- (2) 自由作品(チャレンジしたい生徒が提出するもの)
美術室の掲示板(コンクールコーナー)に、募集内容をはり出しているコンクールについては、誰でも自由に出品できます。ただし、それぞれのコンクールには受付期限があるので、締め切りを守って出品して下さい。

保健体育の勉強法

授業の受け方

体育分野（実技）

- (1) 授業は、必ず体育着（上・下）を着用して受ける。体育館での活動の場合には、室内用シューズも用意する。また、病気やケガなどで見学するときには、特別な場合を除き、体育着で見学すること。
- (2) 休み時間に素早く着替えて、グラウンドでの活動の場合には運動場1周、体育館での活動の場合には館内2周のランニングをグループで行う。
- (3) 用具の準備などがあれば、授業が始まる前に完了させ、始業のベルと同時に授業が開始できるようにする。
- (4) 集合時には決められた整列方法でまっすぐに並ぶ。腰をおろして先生の説明を聞くときには、体育座りで体を話し手に向けて静かに聞く。その時、学習用具は右に整理して置く。
- (5) 常に安全面には気をつけ、真剣な態度で活動を行う。
- (6) 授業には自己の課題に応じた目標を設定し、常に「学習のめあて」を持って取り組むこと。
- (7) 授業には真剣に取り組む、常に健康安全に留意して行うこと。
- (8) 授業で使った用具は、体育委員を中心にみんなで片付ける。
- (9) 授業後は、「実技カード」に自己評価と学習のまとめ、次時のめあてを記入して提出する。



保健分野

- (1) 保健の授業は原則として教室で行う。
- (2) 保健の授業期間には、保健の教科書と保体資料ノートを準備する。
- (3) 毎時間の「学習のねらい」を理解して授業を受け、ノートはきちんとまとめておく。
- (4) 日常の生活を安全・健康に過ごすためには、どのようなことが必要なのかを、保健の学習内容とつなげて考えたりしてみよう。

家庭学習の仕方

- (1) 新聞のスポーツ欄やテレビのスポーツ番組に興味を持って見たり聞いたりしよう。
- (2) 日頃から生活の中に運動を取り入れ、健康増進と体力向上を心がけよう。
- (3) 保健体育で学習したことが、普段の生活の中で生かせないかを常に考え、積極的に実践してみよう。

テスト勉強の仕方

- (1) まず、体育実技や保健の教科書で出題範囲のところをよく読み、内容を理解しましょう。
- (2) 「体育実技ノート」や「保体資料ノート」も、見直しをしておきましょう。学習のまとめや練習問題は、答え合わせまで行い、間違った問題やわからなかった問題はできるようにしておく。
- (3) 授業で確認したルール、技のポイントや名称は確実に理解し、実技の教科書などで確認しておく。

技術・家庭の勉強法



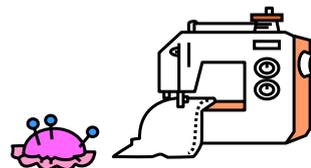
技術・家庭科は、よりよい生活をしていくために必要な基礎的な知識や技術を学び、進んで生活を工夫し創造する能力と態度を身につけていく教科です。

技術分野では

実際にもものづくりをしたり、コンピュータを操作してその技術を身につけていく中で、いろいろと工夫したり、自分なりの新しい考えを出すように心がけましょう。

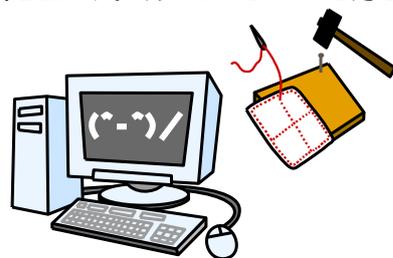
家庭分野では

家庭の役割や周囲の人とのかかわり方、暮らしと環境のかかわり方について考える中で、生活を工夫し実践する力をつけていきましょう。



授業の受け方

- (1)教科書、ノート、Chromebook、diary、その他用意するものが指示されるので、忘れ物をしないこと。忘れ物をすると、その日の授業ができなくなります。
- (2)実習時は服装もきちんとして授業にのぞみましょう。
- (3)ノートは確実に記入する。ノート提出のときは、期限に遅れずに提出しましょう。
- (4)ワークシート(プリント)などは大切なので、ファイルに綴って保管してください。
*家庭科の授業ではファイルは最初の授業で配付します。(ファイルは3年間使用します)
- (5)作品は技能点の中でも大きな割合を占める。先生の説明をよく聞き、工具や道具の扱い方や材料の特徴を考えて、ていねいに作業をしよう。できあがりだけでなく、制作途中の過程も評価されるので、期限内に仕上げること。
- (6)学習内容は、普段の生活に関係したものが多く、これまでの経験や日常生活を思い出しながら関連づけて取り組みましょう。
- (7)多くの作業や実習があります。先生の指示をよく聞き、安全面に気を配り、事故のないように注意して行いましょう。
- (8)作業や実習が終わったら、使用した工具や道具、調理器具などを元の場所にきちんと片付けること。



家庭学習の仕方

- (1)宿題はほとんど出ませんが、学習内容によっては家庭で調べてくることなどが宿題として出されることがあります。
- (2)授業で学習したことを忘れないようにするために、授業のあった日は教科書やノートを読もう。
(読むだけでも学習効果はある)
- (3)授業で学習した内容は、普段の生活に関係が深いものが多く、家庭のいろいろなことがらに関心を持ち、積極的に実践してみよう。

テスト勉強の仕方

- (1)実技点や平常点、ペーパーテストのどれも重視するので、試験範囲が発表されたら、教科書やノート、ワークシートをよく読んで内容を理解しよう。また、クラスルームのお知らせも確認しましょう。いくら作品のできが良くても、テストの点数が悪ければ、高い評定はつかない。
- (2)覚える内容は、紙に何度も書いてしっかり覚える努力をしよう。
(技術・家庭科は覚えることが多いので、テスト前日だけの勉強では難しいと思います)
- (3)「なぜだろう」「どうしたらよいのだろう」などの疑問点やわからないことは、そのままにしないで、それを解決する努力をしよう。どうしてもわからなければ、先生に聞くのが一番早い。